設楽（したら）の山々に子どもたちの歓声を！

住民の方々との話し合い

東栄町では今年の３月末をもって、月、中設楽の２小学校が廃校・統合されました。５月下旬、廃校施設の活用について月地区住民と東栄町プロジェクト学生の協議が実施されました。利用希望のあすなろキャンプも同席し、区長さんをはじめ住民の参加は約 40 名でした。学生が東栄町の持つ自然・人的資源と廃校施設利用の可能性について、調査結果を踏まえた提言を行いました。引き続く交流会は深夜に及びました。住民の小学校に寄せる思い（―学校はその土地に刻まれた地域文化の歴史そのもの、心のよりどころである―）に学生たちは大きな感銘を受けました。

森田東栄町長が本学へ

６月８日東栄町から森田町長が来学され学長との懇談が行われました。

懇談後学内学生諸団体に対し、廃校施設の他に町内スポーツ・宿泊施設の利用説明会が行われました。体育、文化サークルなど約 10 団体が参加し、６月 25 日には見学会が実施されました。

８月から９月にかけて町内スポーツ施設で２団体、旧月小学校で３団体が合宿を行いました。また東栄町プロジェクトが仲介した知多市学童クラブの利用が決まりました。

今年の活動内容

社会福祉学部　教授　平野　征人

住民・子どもと交流 ―清流に歓声

教職志望の学生の自主ゼミ「教友ゼミ」14 名が、８月中旬に地域の子ども、住民との交流を基本においた宿泊体験学習を展開しました。地区のお年寄りに手ほどきを受けながら、藁草履づくり、五平餅づくりを体験し、豆先生として、勉強会や紙芝居を行いました。川遊びでは清流に歓声をあげながら子どもたちとの交流を深めました。第１日夜の交流会、第２日のキャンプファイヤーは住民との交流を深め、中山間地の暮らしと生活、文化の伝承などを考える機会がありました。

住民組織の立ち上げ ―廃校施設の保全・活用へ

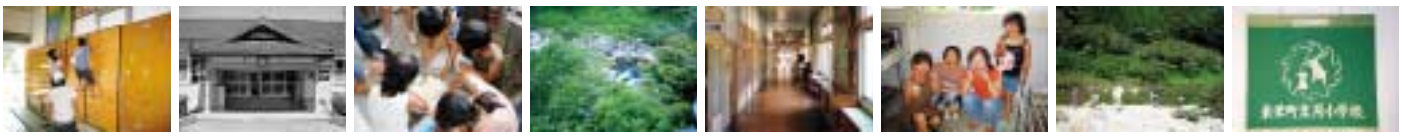
月地区では、今夏の経験を基に廃校施設の保全と利活用を考え、地域活性化の方向を検討する「町づくり協議会」の発足が確認されました。もともと小学生がいるいないにかかわらず地区内の全ての家庭がPTA　会員であるという地域共同体の伝統を持つ月地区です。伝統を活かし、活性化につなげるために、月地区・町当局・本学プロジェクトの連携が一層求められています。本学学生にとっては、地域福祉・地域文化・地方行政を学ぶ場であるともいえます。

東栄町廃校活動プロジェクトとは？

愛知県北設楽郡東栄町は人口が約 4,500 人で、町の面積 91％が山林を占めているまちです

現在、児童数の数が 150 人余と減少しているため、各地域に設置された学校が相次いで廃校になります。その歴史的価値をもつ、古い木造校舎の再利活用の検討に本学の学生が立ち上がり、まちや校舎の調査を行っています。

“自然”や“食”をテーマにした、この活動に知多市の学童保育連絡協議会が応え、『山の体験学校』活動の提案を行いながら、地域の方々と連携し、様々なイベントに参加しています。



—住民・学生の協働—　東栄町プロジェクト

—学生—　いいまち、いい住民、いい校舎をそのまま残していきたい

社会福祉学部３年　望月　雅代

東栄町は、本当にきれいな所でびっくりしました。木造校舎は１軒家のような温かみがありました。月小学校は、地域の方々に支えられていて幸せだと感じました。明治時代に住民の方々の支援によって作られた学校だと聞いて、地元の人々の学校に対する思いの強さを感じ、これからも学校を守っていこうという思いが本当に素晴らしいものだと思いました。月小学校があるからこそ、地域の人々もつながりや、月小学校を守っていこうとする思いが、住民の人々に根付いていると思いました。これだけまとまりがあり、住民の人々は大きな家族のようで、気持ちは一つだと思いました。

東栄町での思い出は色々ありますが、中でも一番楽しかったのは、キャンプファイヤーです。火を囲んで住民の人々が地域特有の踊りを踊ってくれました。私たちはそれを見よう見真似で踊りました。この踊りは後世にもしっかりと伝わっていってほしいと思います。高齢の方々は、特に楽しそうに踊っていて、その雰囲気がとてもよかったと感じました。

子どもたちは、少人数ながらも、上の子は下の子を思いやるというとてもあたたかい光景や本当に元気な姿が随所でみられました。子どもたちもとても深いつながりがあり、信頼関係が出来上がっていると感じました。

五平餅づくりを教えてもらいました

社会福祉学部３年　榊原　幸

６月25日、私達東栄町プロジェクトチームは月公民館での月地区住民懇談会の後、月小学校に一泊させて頂きました。夜の小学校は昼間と違い、澄み切った青空、緑が生い茂った山々の景色とは一変して暗闇に包まれ、昼間の日差しの暖かさとはまた違う、夜の独特の涼しさがありました。このような新鮮な世界が広がる中、興奮の冷めない私達は結局交流会の後も真夜中まで笑い、語り、普段では味わうことのできない環境を満喫したのです。

翌日は青白い空の中、辺りの山々はうっすらと霧がかかり、無意識のうちに深呼吸をしてしまいそう（というかしてしまいました）な情景が私達を迎えてくれました。まさに時が経つのを忘れてしまう状態というのはこういう事を言うのだと思った瞬間でもありました。

この体験はこのプロジェクトを進める上で、とても貴重なものとなりました。

—東栄町の人—　学生たちとの交流は子どもたちにも貴重な時間でした

東栄町長
森田　昭夫さん

日本福祉大学のみなさんには、昨年７月に「東栄町廃校活用プロジェクト」を発足いただき、廃校の有効活用を研究いただいています。この夏休みを利用し、実際に廃校となった月小学校を拠点にサークル活動やゼミなどでご利用いただきました。また、地元住民との交流活動も積極的に行っていただき、本当に感謝しています。

本町は人口4,500人で高齢化率が43%の典型的な山村過疎地域であります。今回のこうした取り組みにおいて、学生のみなさんとの交流などを通じ、自分の地域にない資源（人やモノ）・意識・感覚を取り入れることにより、今までと違った（またできなかった）地域づくりが可能となることから、今後も交流活動に期待しています。

月こども育成会
会長　伊藤　勝人さん

平野教授と出会ってから約4ヶ月になります。そして、皆さんの活動を間近でみたのは、８月上旬の教職ゼミの合宿だけですが、そこから感じた事を述べます。

地元の子供たちと、五平餅づくり、わらじ作り、キャンプファイヤー等に真剣に取り組んでいる姿に好感がもてました。また、子供たちも、たった２日間の交流でしたが、いろいろな体験ができたことが今でも話題になります。日本福祉大学の皆さん。ありがとう。

また再会できることを期待しています。